

舞いこんだ自民
総裁選投票用紙

「……ある組合員のもとへ、『自
民党総裁決定選挙投票用紙』が舞
いこんだ。ちゃんと返信封筒まで
同封するという、念の入れ方。」

「あれ、俺はいつ自民党員になっ
たのかな?」と、ときれ顔のそ
の人。何度見ても、差出人は同党
「選挙管理委員会」。ここに自民
党総裁選挙なるものの正体あり、

十一月五日、三川指導部有志による紅葉の八方岳登山に参加。早田、芳川、田中教、岡村の各氏の指導を受け無事登頂する。

怪奇なる三天岩降が関所のように登路にそびえ、津江山群の雄をなしている。

原生林あり、高原あり、谷川あり。変化に富んだ山で、自生の山いちごを含めば甘すっぱい香りがつかれた身体をいやしてくれる。今にも落ちそうな巨岩が、チヨッコリと岩に乗っかっている。

岩肌をくり抜かれ、ポツカリと穴を明けられてそそり立つ岩壁。緑一色の中の紅葉がひと際目だつ。自然の造形であり、すばらしいの一言につきる。

谷間の草陰に寝ころんで樹上を見れば、葉陰よりもれる靑空が痛

いほど目にしみる。

山頂より眺めると、雲仙が雲の上にそそり立ち、九重、阿蘇、釈迦、御前（ごぜん）の山々を一望におさめることができる。

山頂で飲む一ぱいは、天下の美酒である。みんなで山頂パーテイを開く。焼酎あり、ウイスキーあり。

激しい労働の続く日々のなかにあって、何もかも忘れ自然の中にとけこむのも良いものである。

馬刺をつつきながら、谷川の水で割ったウイキーを飲む。山での一つのたのしみである。

みなさんも一緒に山に登って、友情を深めませんか。明日の三池労働組の発展のために。

☆ ☆